

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	10	05	01	104350	青少年活動推進事業費		
総合計画	分野	03	人づくり	政策	03 生涯学習の推進		
	施策	02	青少年の社会教育				
目的	児童・生徒・青年の健全育成を図るため、体験活動の場の提供や青少年関係団体への支援を行うとともに、成人式を開催する。						
対象	少年、青少年関係団体及び市内の幼児・児童・生徒を持つ保護者、新成人						
意図	青少年の育成や活動を支援し、自立した青少年を育む						
事業概要	はなまき！おもしろ探検隊開催 6回 183千円 家庭教育支援講座の開催 6回開催 105千円 青少年関係団体支援 390千円 ・青少年関係団体（3団体）への補助 成人式開催 1,550千円 ・式典の部（市主催）、記念行事の部（成人式記念行事実行委員会主催） 共通 34千円						
市民参画の有無							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標			単位	区分	H30	H31	R02
1	成人式アンケート回収率	%	計画		30.00	30.00	
			実績		28.40	33.30	
2	青少年体験活動支援行事の開催回数	回	計画		3.00	4.00	
			実績		3.00	3.00	
3			計画				
			実績				
成果指標			単位	区分	H30	H31	R02
1	成人式アンケートの満足度	%	目標		90.00	90.00	
			実績		98.50	95.40	
2	青少年体験学習参加者数	人	目標		110.00	110.00	
			実績		75.00	76.00	
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
成人式アンケートの満足度については、毎年成人式の内容を検証・見直しをしたうえで改善を重ねてきていることから、目標どおりの実績を得ることができた。 子供たちを対象とした体験活動学習「はなまき！おもしろ探検隊」では、子供たちが楽しみながら活動し、地域の魅力を体験できる事業として開催していることから、概ね目標どおりの参加が得られた。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	少子高齢化や核家族など社会が変化している中で、青少年が健やかに育つ環境づくりや、定住を見据えた市の将来を担う人材として育成支援に市がかかわることは重要なことである。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	青少年の郷土を愛する心を涵養することは「花巻で仕事をしたい」「地域に関わりたい」という将来の定住意識の涵養にもつながると思料されるとともに、事業の実施を通じ、児童の家族や市民の青少年教育に対する認識が向上するものと思料される。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・事業は、節減努力を図り必要最小限で実施していることから、削減余地はない ・職員が関わるのは、補助金交付事務、連絡調整等が主な業務であり、人件費の削減余地はない
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	・市内在住の全ての青少年を対象としており、受益機会は均等である
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	適正である	
総合評価	今年度の振り返り	「はなまき！おもしろ探検隊」 ・学区を超えた全市児童を対象に「はなまきをもっと大好きになるう！」をテーマに実施。高校生等も運営に参画し、子供たちの一体感の醸成や達成感・自己肯定感・地域を愛する心の醸成に大きく貢献するものと思慮する。（おもしろ探検隊：児童28人参加、【石鳥谷】サマーキャンプ：児童48人参加） ・「家庭教育支援講座」「赤ちゃん教室」と「孫入門講座」「親子工作教室」の3講座を立ち上げ、対象を「家族」として講座を実施。アンケート結果では参加者からどの講座も好評を得ている。（申込者数 赤ちゃん：8家族24人、孫：15人、工作：3家族11人）
	次年度に向けて	はなまき！おもしろ探検隊等の青少年の体験活動事業においては、高校生等のボランティアリーダーが活躍できる場としても展開し、児童・生徒から青年層まで年齢に応じた体験の循環が出来る事業を目指していきたい。 家庭教育支援については、子供を中心とした「家族」を対象として講座を開設することにより、核家族化にも対応した現在の子育てについて支援し、家族全体が一緒に成長できる講座を目指したい。

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	02	01	01	124010	非核平和推進事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	03 生涯学習の推進	
	施策	02	青少年の社会教育			
目的	非核平和に対する意識の向上を図るため、平和の尊さを感じる機会として非核平和推進事業を行う。					
対象	市内小学校の児童及び中学校の生徒					
意図	平和の尊さを感じ、非核平和に対する意識を高める。					
事業概要	非核平和学習会の開催 620千円 小学生を被爆地広島市に派遣し、戦争の悲惨さや原子爆弾の恐ろしさを学ぶ学習会を開催 9人参加 非核平和学習会感想文集の発行 66千円 非核平和の普及啓発として非核平和学習会に参加した小学生の感想文集を発行 1,640部発行 平和教室等の開催 5千円 非核平和に対する意識を醸成するため、小学校において平和教室（平和ビデオ上映会）を開催したほか、非核平和展（平和ポスター展、平和ビデオ上映会）を開催 平和教室1回開催（13人参加） 非核平和展7日間開催（約90人来場）					
市民参加の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	非核平和学習会の参加児童数	人	計画	9.00	9.00	
			実績	9.00	9.00	
2	平和教室の開催回数	回	計画	5.00	5.00	
			実績	1.00	1.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	非核平和学習会に参加して「勉強になった」と感じた児童の割合	%	目標	100.00	100.00	
			実績	100.00	88.89	
2	平和教室に参加して「勉強になった」と感じた児童及び生徒の割合	%	目標	100.00	100.00	
			実績	100.00	100.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
非核平和学習会、平和教室に参加した児童にアンケートを実施。児童の非核平和に対する意識は高く、平和教室に参加した全ての児童が、非核平和学習会に参加した児童9名中8名が「勉強になった。」と感じている。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市が平成18年3月に宣言した「非核平和都市」を推進するものであり、民間等で類似する事例もないことから、市での実施が妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	非核平和学習会、平和教室に参加したほとんどの児童が「勉強になった。」と感じているが、平和教室の開催周知に努め、より多くの学校等で開催することにより成果の向上が見込める。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	必要最小限の事業費であり、削減は難しい。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	非核平和学習会は学校を通じて、平和教室は広報、ホームページ等で周知し、参加者、参加校等を募集している。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	被爆地広島市への訪問や平和ビデオ上映会などを通して、戦争の悲惨さや原子爆弾の恐ろしさを自らの目や肌で感じる事ができ、非核平和の尊さを後世に伝えていく子どもたちの育成につながった。
	次年度に向けて	非核平和の尊さを後世に伝えていく子どもたちの育成を更に推進するため、特に平和教室の開催周知に努める。

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	03	02	04	134660	少年センター運営事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	03 生涯学習の推進	
	施策	02	青少年の社会教育			
目的	少年の非行防止及び健全育成のため、補導、啓発活動及び少年相談を行う。					
対象	青少年（小学生から20歳未満）					
意図	青少年を取り巻く環境の浄化を図り、健全な青少年を育む。					
事業概要	少年補導委員による街頭補導活動 3,303千円 街頭補導活動実施回数 337回 青少年問題協議会の開催 0千円 ・令和元年度の開催なし					
市民参加の有無	無し					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	街頭補導活動数	回	計画	408.00	408.00	
			実績	359.00	337.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	非行少年補導数	人	目標	0.00	0.00	
			実績	0.00	0.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
少年補導委員による街頭補導活動・愛の一声運動等を行ったことで、非行少年を生まない社会づくりを推進した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	少年の非行防止及び健全な育成に関し、市が主体となり関係機関と協調を図り効果的な活動を推進する。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	警察、防犯協会、スクールガード等地域ボランティア等が連携することで更に成果向上が見込まれる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	巡回計画や集計報告等、効率的に職員が事務を行っている。最小経費のため、削減できない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	全市民を対象としているため公平である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	少年の非行防止及び健全育成のため、少年補導委員による街頭補導活動等を行ったことで、非行少年を生まない社会づくりの推進が図られた。
	次年度に向けて	今後も少年の非行防止及び健全育成のため、引き続き事業を継続する。